



発達障がいの理解と支援

こども発達サポート 運動療育のかがやき
管理者 兼 児童発達支援管理責任者 福井 宏昌

ママキラ会開催にあたってのお願い

- ・この会で知り得た個人情報に関わる内容は、秘密厳守でお願いいたします。
 - ・お互いにプライバシーを尊重して頂き、気持ち良いお付き合いができるようご配慮お願いいたします。
 - ・皆さんが気持ちよくお話できるように心がけましょう。
 - ・一人でお話が長くなり過ぎないようにお願いいたします。
 - ・政治・宗教・営利活動等をご遠慮ください。
 - ・無理に話さないといけないということはありません。
- 聞くだけの参加でも結構ですのでお気軽にご参加下さい。

発達障がいの基本

発達特性と発達障がい

通常クラスにも支援が必要な子どもが1割いると言われる。
重要なのは診断名ではなく、どんな発達特性があるかを
理解すること。

発達特性を知ることによって気になる行動の原因が見えてきて
その子どもに合わせた支援法を考えることができます。

「発達特性＝障がい」ではありません。

- 言語表現が苦手
- 対人関係が苦手
- パターン化した行動、
こだわりが強い

自閉症スペクトラム障害

② 広汎性発達障害 (PDD)

アスペルガー障害

- 基本的に言語の発達の遅
れはない
- 対人関係が苦手
- パターン化した行動、興味
・ 関心のかたより

① 精神発達遅延 (MR)

知能指数 (IQ69) 以下
いわゆる「知的障害」

- 学習障害 (LD)
「読む」「書く」「計算す
る」などの能力が極端
に苦手

学力の特異的発達障害

③ 特異的発達障害

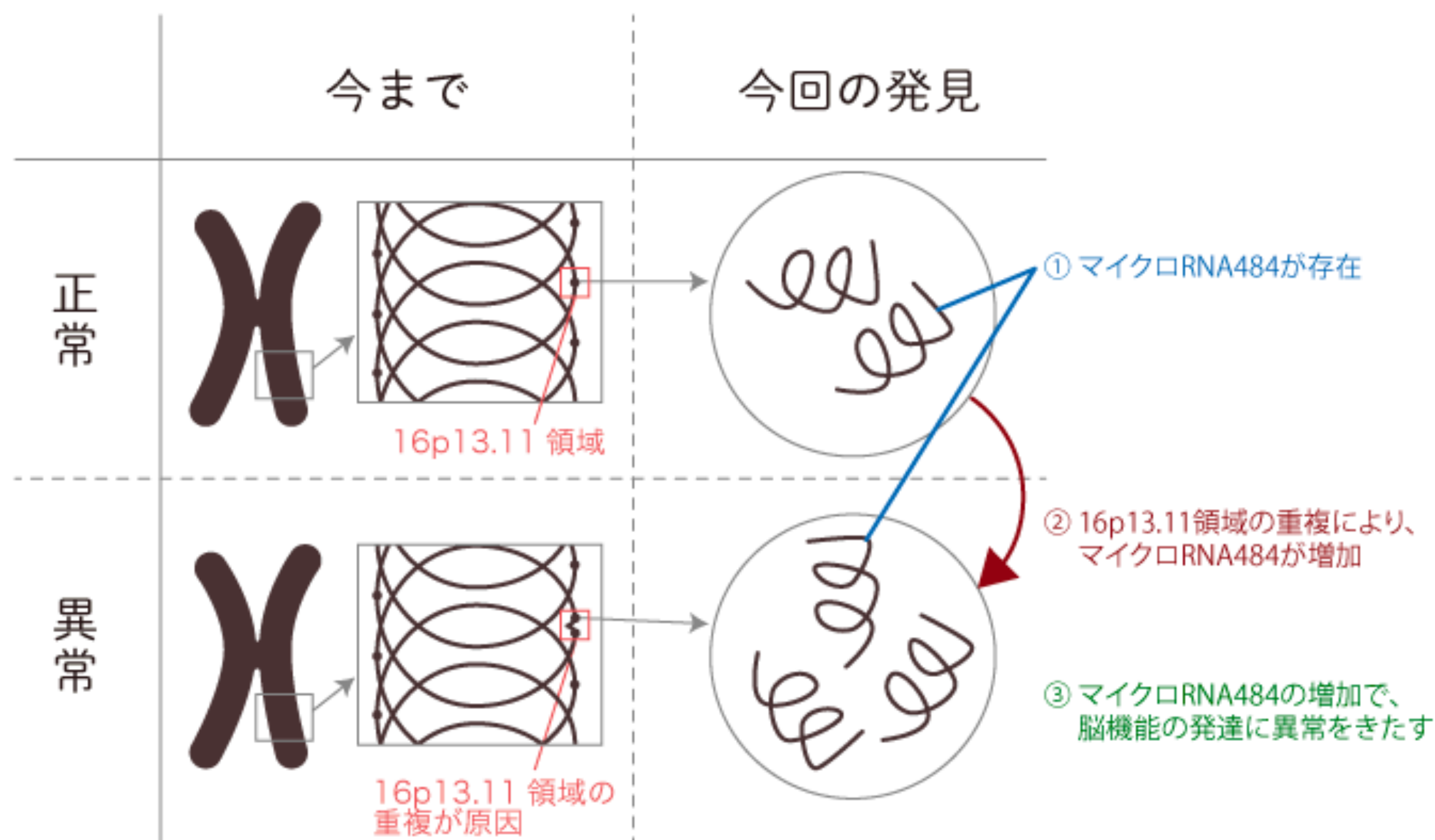
運動の特異的発達障害

- 発達性協調運動障害
不器用

④ 注意欠如多動性障害 (ADHD)

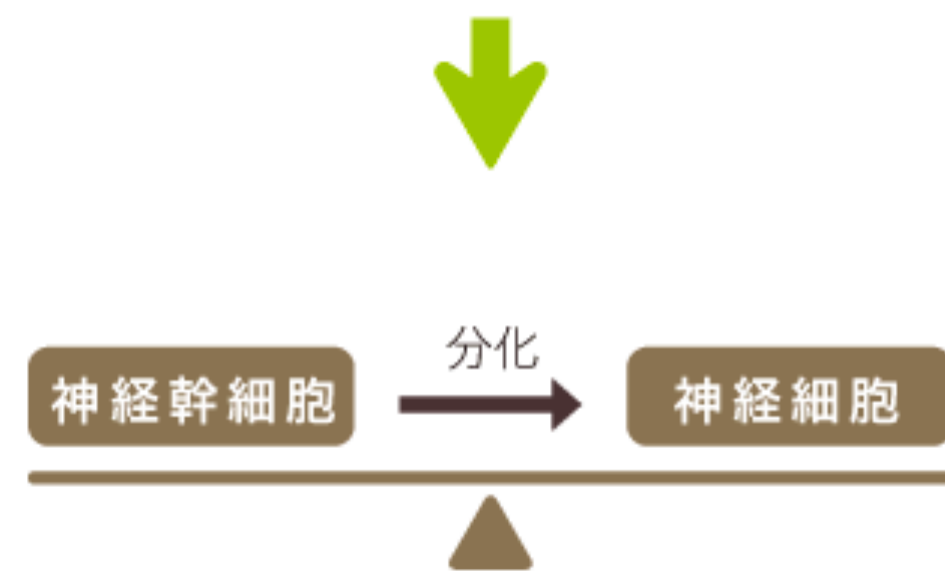
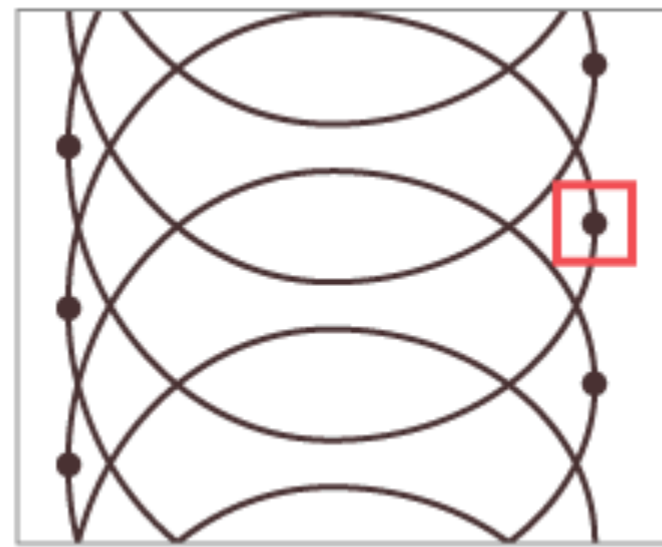
- 不注意 (集中できない)
- 多動 (じっとしてられない)
- 多衝動的に行動する

発達障がいの原因



- ▶ 発達障がいは、染色体の一部分の重複により生じる
- ▶ 1. 16番染色体の16p13.11領域の中にマイクロRNA484が存在
- 2. 16p13.11が重複することでマイクロRNA484が増加
- 3. マイクロRNA484が増加すると脳機能の発達に異常をきたす
(発達障がいを引き起こしうる)

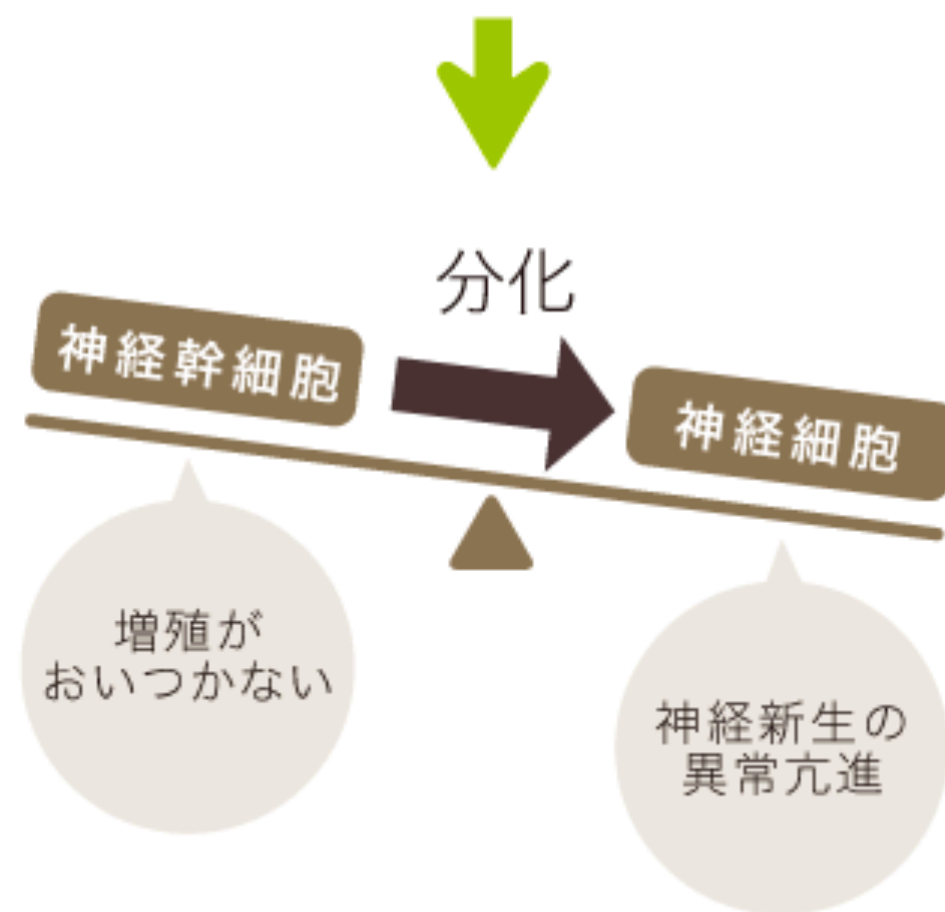
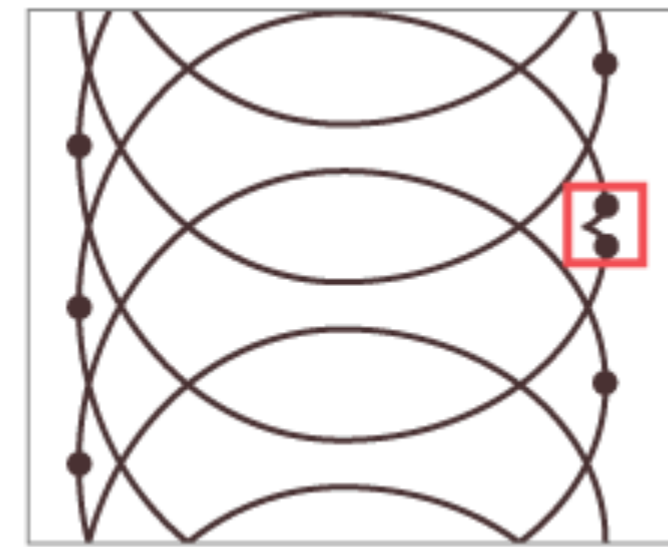
正常



正常

※ PCDH19 … プロカドヘリン 19 蛋白

16p13.11 領域の重複



不適切な神経回路の生成

発達障害

- ▶ 16p13.11が重複することでマイクロRNA484が増加する
- ▶ マイクロRNA484⇒脳の発達に重要な役割をはたすプロカドヘリン19蛋白の機能を過度に減らしたり、弱めたりする
- ▶ 異常な神経回路が構築されてしまい神経発達障害を発症。

【結論】

遺伝子の異常が原因で脳の神経発達障害が起こることにより様々な発達障がいがあるので改善には時間がかかるが、運動刺激など様々な刺激を与えてあげることです。少しずつでも必ず成長は見られる。長い目で少しずつの成長を受け止めて、褒めてあげることが大切。

原因が分かっていることで、将来的にはゲノム製薬による治療も可能になるかも。

療育手帳

知的障がいのある方が、一貫した指導・相談や各種の援護サービスを受けやすくする為に交付される。

療育手帳A：重度

療育手帳B1：中度

療育手帳B2：軽度

【判定機関】 申請は区役所保健福祉課へ

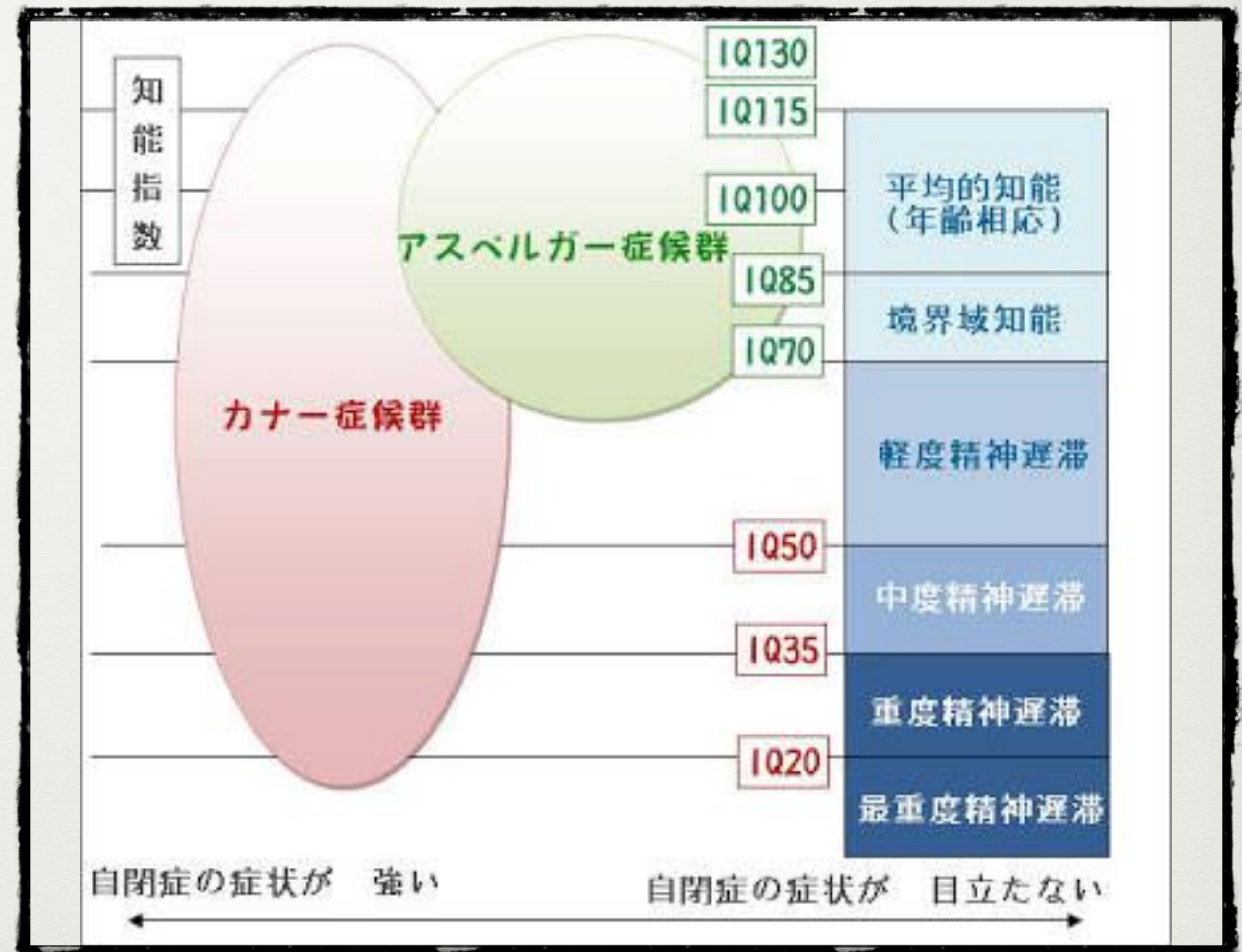
1 8歳未満⇒児童相談所・大阪市南部こども相談センター

1 8歳以上⇒知的障がい者更生相談所・はーとふるぷらざ（喜連瓜破）

厚生労働省による知的障がいの程度判定基準

- 障がいの区分はIQや日常生活能力などを総合的に判断して認定される（自治体により異なる）

※アスペルガー症候群などは自閉傾向の強弱のみによって分類されたもので健常者との明確な境界線は引けない。



自閉スペクトラム症（ASD）

社会性・コミュニケーションが年齢相応に
育ちにいくく限定された興味やこだわりがある



- 言葉の発達に遅れがある
- 空気が読めない
- 他人の気持ちがわからない
- 自分のルールを押しつける
- 物やルールのこだわりが強い
- 会話がちぐはぐになる
- 興味の偏りが激しい

特性例（自閉症・自閉症スペクトラム症など）

＊孤立型:一人でいるのを好む。人と関わるという事がよく分からず
人を道具のように扱うことも

＊受動型・ ・ 人に関わるのは嫌がらないが本人のストレスに注意が必要

＊積極型・ ・ 人と積極的に関わろうとするが関わり方が一方的

＊四角四面型・ ・ 真面目でルールに厳格、融通がきかない

自閉スペクトラム症の中核症状

- ①対人的コミュニケーションと相互作用の障がい

3つの項目すべてに当てはまること

I. 対人的・情緒的相互作用の障がい

(対人行動、会話の開始の困難や一方向性)

II. 対人相互作用における非言語的行動の障がい

(視線が合わない、しぐさ・表情乏しい)

III. 発達年齢相応の仲間関係が築けない

(ごっこ遊び困難、友達作りへの関心が希薄)

自閉スペクトラム症の中核症状

- ② 限局され反復する行動や興味

4つの項目中2項目以上に当てはまること

- I. 常同的・反復的行動（エコラリア【オウム返し】も含む）
- II. 習慣的・儀式行動への固執、変化に対する過度の抵抗
（こだわり）
- III. 著しく限局化した興味（熱中の仕方や対象が極端で逸脱している）
- IV. 感覚刺激への過敏 or 鈍麻（痛み、寒暑、回転する物体を含む）

乳児期の特徴

- ・言葉の遅れ
- ・視線が合わない
- ・人の声や顔に興味を示さない
- ・抱っこを嫌がる、または抱きにくい
- ・真似をしない
- ・指差しが見られない

幼児期の特徴

- ・ 反復遊び・感覚遊びなどの一人遊び、
または「ごっこ遊び」に発展性がない
- ・ 集団活動への参加が難しい
- ・ 指示が通りにくい
- ・ 興味の偏りが激しい
- ・ 初めての場所を怖がる
- ・ 急な予定変更があると混乱する
- ・ 会話がちぐはぐになる

人とのコミュニケーションで困ること

- ・場の空気、雰囲気に分かりにくい
- ・相手の立場や気持ちに分かりにくい
- ・親しい友人関係が作れない
- ・暗黙のルールや常識が分からない
- ・本音と建前の使い分けが分からない
- ・話はできても、一方的な会話で要点が
まとまらない（会話のキャッチボールが困難）

人とのコミュニケーションで困ること

- ・ 話し言葉を聞いて理解するのが苦手
(字義通りに理解、偏った解釈をする)
- ・ 冗談や曖昧な表現が伝わらない
- ・ アイコンタクト、ジェスチャー、うなずき、表情
などの使用が限られる
- ・ 相手の表情を理解するのが難しい

体験してみましよう

誤信念課題「サリーとアン」

これはサリーです。

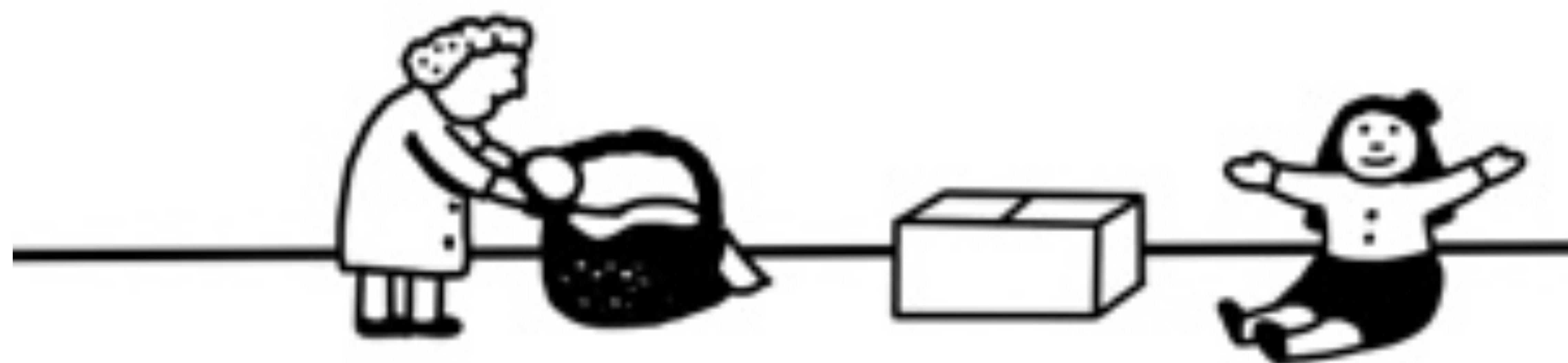


サリーは、
カゴを持っています。

これはアンです。

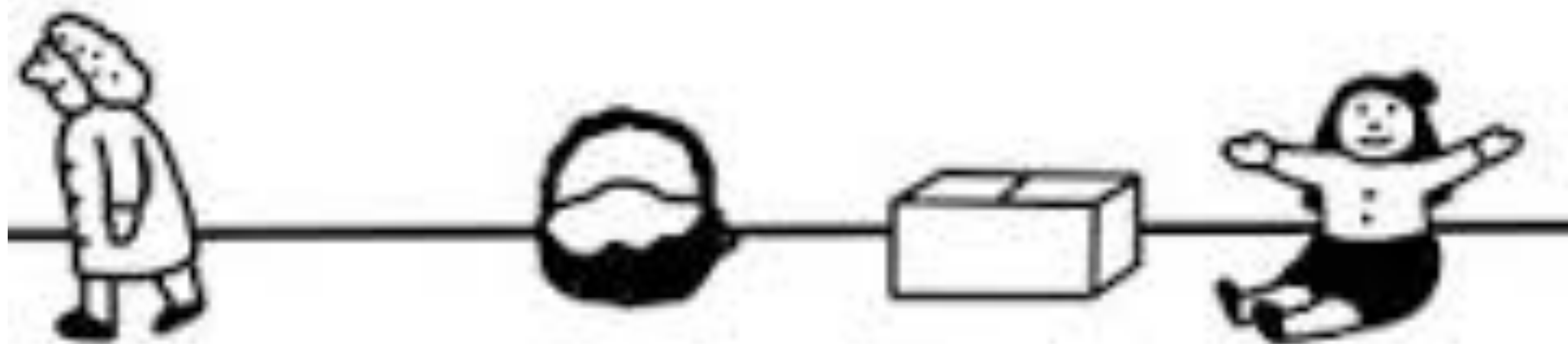


アンは、
箱を持っています。



サリーは、ビー玉を持っています。

サリーは、ビー玉を自分のカゴに入れました。



サリーは、外に散歩に出かけました。



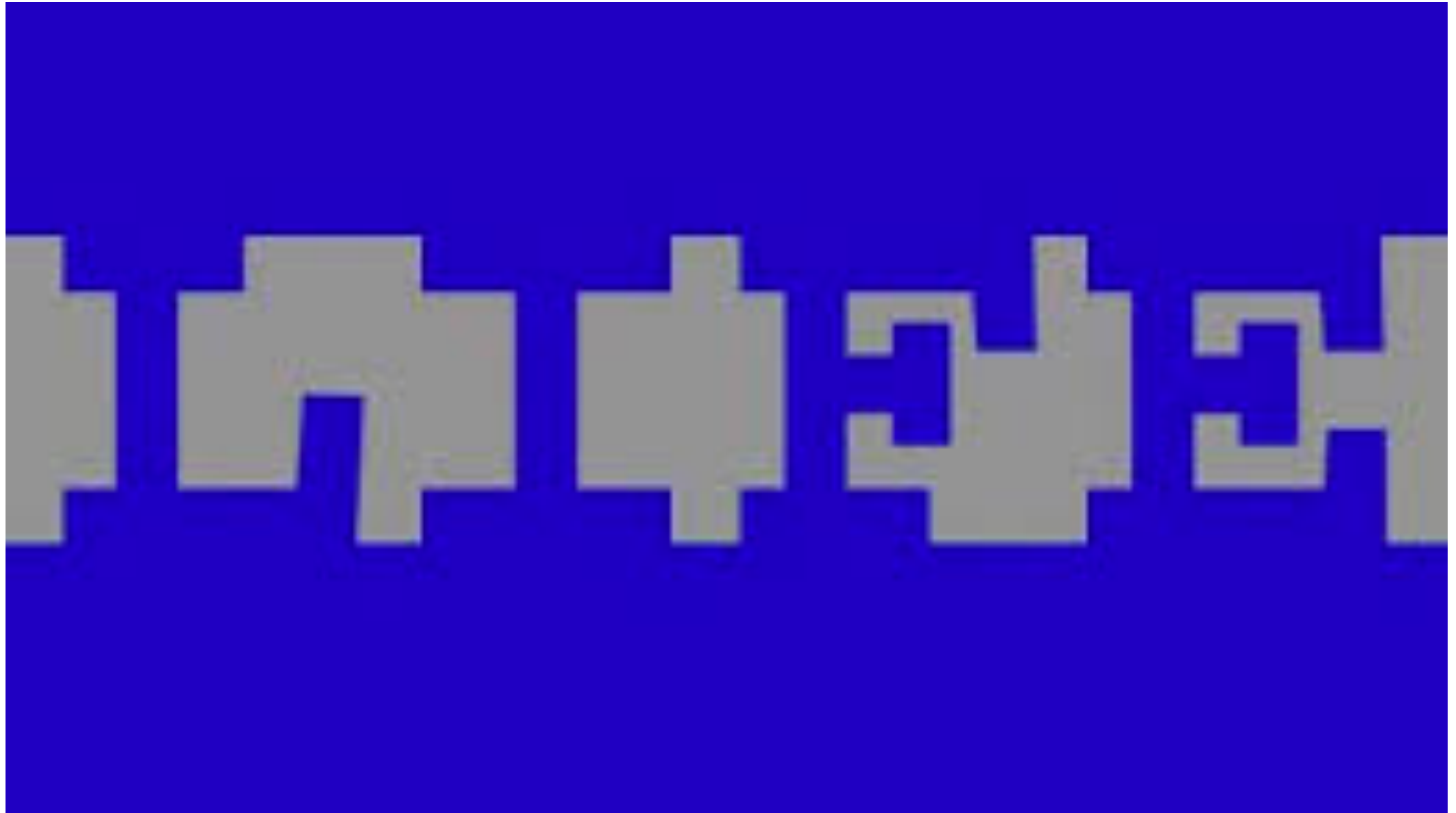
アンは、サリーのビー玉をカゴから取り出すと、
自分の箱に入れました。

さて、サリーが帰って来ました。



サリーは自分のビー玉で遊びたいと思いました。
サリーがビー玉を探すのは、どこでしょう？

カゴでしょうか？箱でしょうか？それとも・・・



これ何でしょう？

視覚系認知の困難さ

視覚情報の処理がうまくいかないと「**図**」と「**地**」が混乱する

図：注目すべきもの⇒グレーの部分

地：背景となるもの⇒青い部分

視覚情報が同じ強さで目に飛び込んでくるので

見るべき物が分からない

聴覚系認知の困難さ

聴覚情報の処理がうまくいかないと「**凶**」と「**地**」が混乱する

凶：聞き取りたい音や声

地：無視してもいい周囲の雑音

聴覚情報が同じ強さで耳に飛び込んでくるので

必要な音が拾えない

身体感覚の特徴

感覚過敏⇔感覚鈍麻

視覚：まぶしがる、太陽・蛍光灯・反射して光る物を嫌がる

聴覚：急に発せられる物音に異様に驚く

周りの人が気づかないような音に気づく

嗅覚：特定の匂いが気になる（生臭い、カビ臭い、化粧の匂いなど）

触覚：特定の生地 of 肌触りが苦手（チクチク、ザラザラなど）

味覚：好き嫌いが激しい。食感が苦手な場合がある。（ネバネバ、
パサパサ、ドロドロなど）

- ・ 誤解されやすい
- ・ 対人トラブルを起こしやすい
- ・ 騙されやすい

そのため、二次障がいを引き起こしやすい



自尊心の低下

いじめ被害

注意欠如多動症（ADHD）

1 2歳以前から年齢・発達に不釣り合いな不注意、多動、衝動性が複数の場所で一貫して見られます。



- 落ち着きがなく動き回る
- 指示が通り難い
- 癇癢を起こす
- 一方的な行動をとる
- 順番を待つのが苦手
- 集中力が続かない
- 忘れものや物をよく失くす

特性例（AD/HD [注意欠陥・多動性障害] など）

ADHDの特性

＊不注意・・注意の配分がうまくいかず、①忘れ物・なくし物が多い
②すぐ注意がそれる、③日課が定着しない、④周囲に注意が向かない

＊多動・・①じっと座ってられない、②体の一部がいつも動いている
③空想や色々な考えが次々浮かんでくる

＊衝動性・・①順番を待てない、②思ったことがすぐ口に出る
③思いついたらすぐに行動へ移さないと気が済まない、
④思い通りにならないと癇癪を起こすなど

学習症（LD）

・ 読字障がい ・ 書字障がい ・ 算数障がい



- 能力の取得が偏る
- 読み書きが習得できない
- 言葉の発達が遅く偏る
- 計算だけができない
- 時計だけが読めない
- 手先が不器用
- 図形・グラフが苦手

特性例（LD〔学習障害〕など）

＊聞く、読む、書く、計算する、推論するなど特定の学習能力を習得することが困難

＊視覚・聴覚・知的・情緒障害などの障害や環境的な要因が直接の原因ではない

＊小学校入学以降になってから気づくことが多い

＊能力が高い部分もある為、できないのは本人の努力不足と思われ、つらい思いをすることが多い

読字障がい



おおきなか、わに、お
おき、なかば、とわに
がすんで、いました。
わには、ともだちが、
ほし、いと、おもって
いました。

書字障がい



区・凶

わ・ね

字点車

消化木缶

発達性協調運動障がい

＊体の機能に障害がないにも関わらず、体の部分を協調して動かすことが難しく、うまく運動ができない。

- ＊・手先の運動（ハサミを使ったり、ボタンを留める）
 - ・全身運動（走ったり、跳んだり）
 - ・組み合わせ運動（スキップ、縄跳び、楽器の演奏など）
- のどれがうまくいかないかによってタイプが分けられる。

支援の基本



☆一人ひとりの障がい特性を把握するための情報（観察、検査など）を収集しお子様に合わせた支援を考える。

☆障がいによる症状を克服・訓練させることよりも、今持っている能力をどう活かすか、長所をどう伸ばすかを考える

☆得意なこと、好きなことに焦点を当て、目標までのスモールステップを設定して達成感を持たせる

『効果のない対応』

- ・ 罰だけを与える

威嚇、怒鳴る、反省文など

自尊感情が低下、不安や恐怖心が高まる

- ・ 抽象的、一貫性のない指示をする

混乱して何をすべきか分からなくなる

- ・ 人情論に訴える

泣き落としや説得を通じない

『効果的な支援』

☆具体化する☆

曖昧な表現を避け、何をどうするか、すぐに行動に移せる言い方にする

* うるさい！⇒声をボリューム2にしてくれる？

（スケール使用、TVの音など）

* いい加減にしなさい！⇒あと何分で終われそう？（タイマー併用）

* 9時5分前に集まりなさい⇒8時55分

* このへんで待っててね⇒〇〇で待っててね

* ちゃんとしなさい⇒

* もう少し頑張って⇒

『効果的な支援』

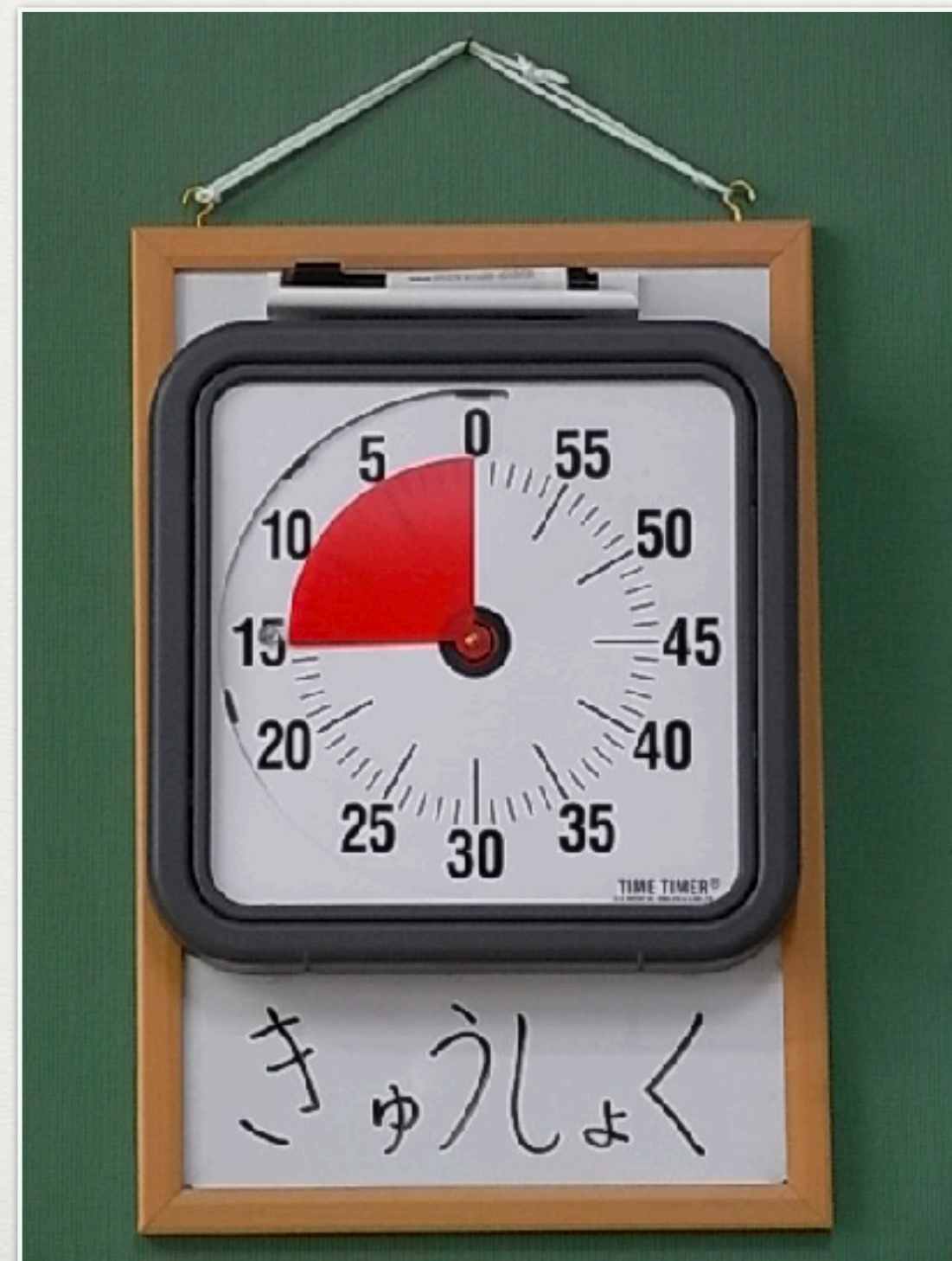
☆視覚化する☆

口頭での指示より目からの情報の方が理解しやすい場合もある。

(例) 時間を視覚化する

タイムタイマー
の使用

⇒残り時間が
見て分かる



『視覚化』の例

☆予定を視覚化する⇒見通しが立つ

今日の予定イラスト



絵カード【支度編】80枚（38種類）

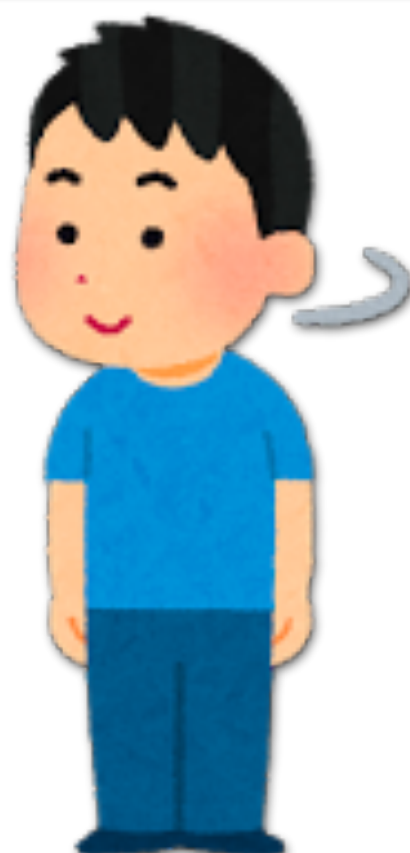
『視覚化』の例

☆ルールを視覚化する

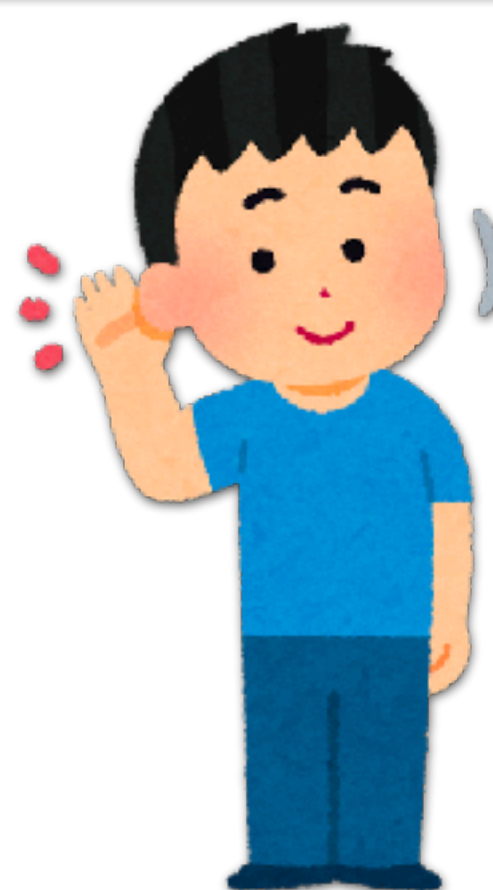
止まる



見る



聞く



待つ



でかけるときのおやくそく

とまる



みる



きく

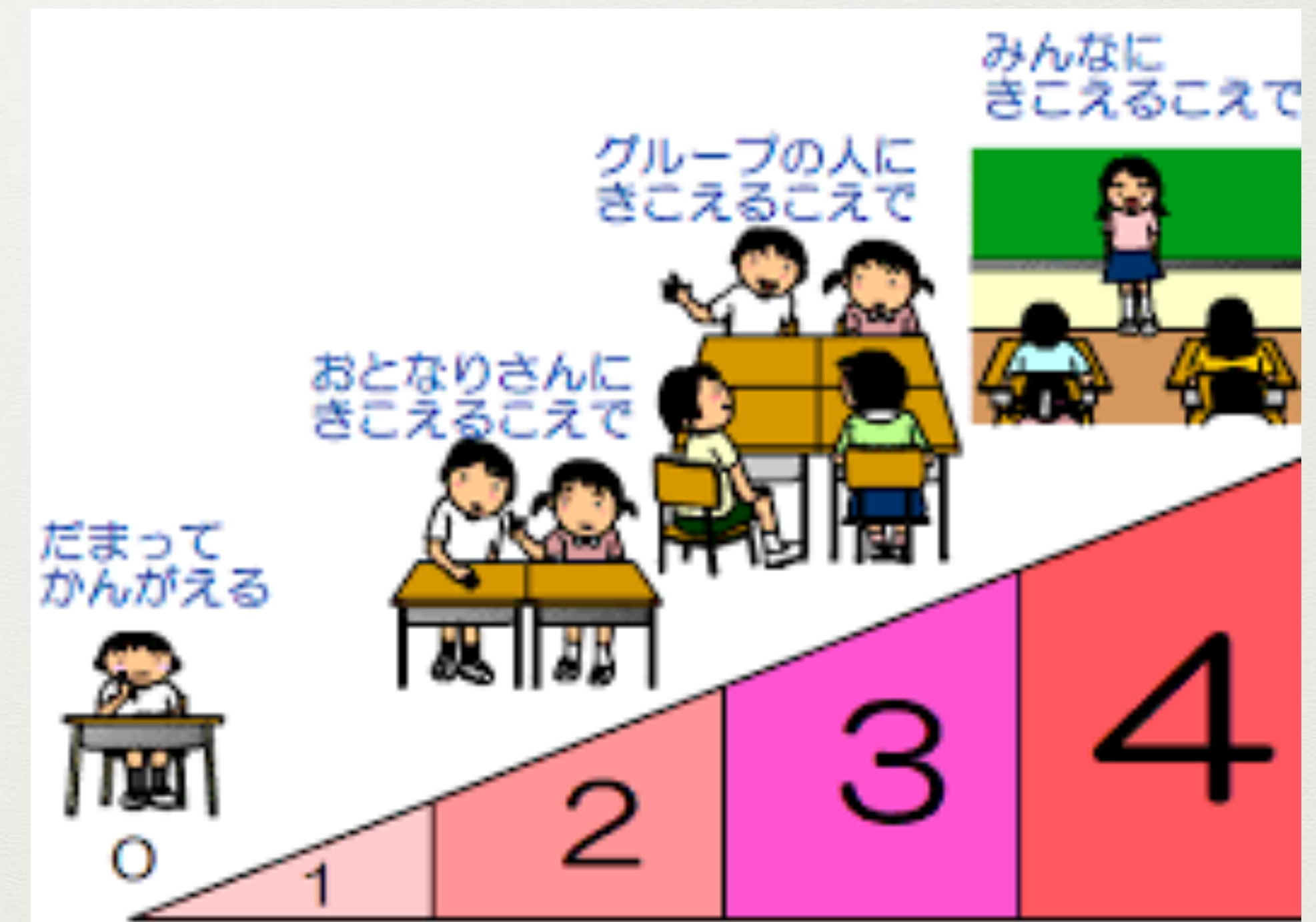
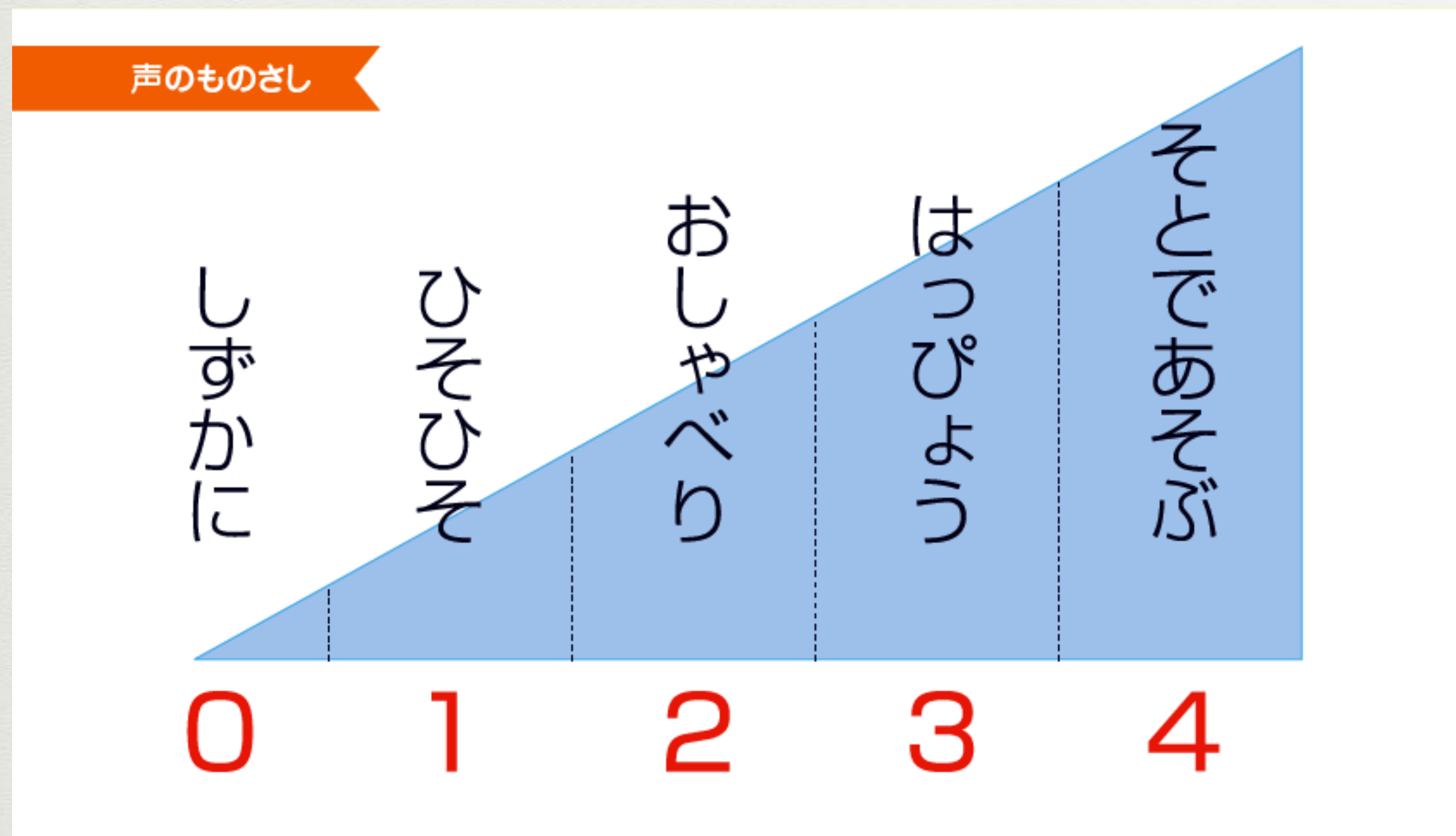


まつ



『視覚化』の例

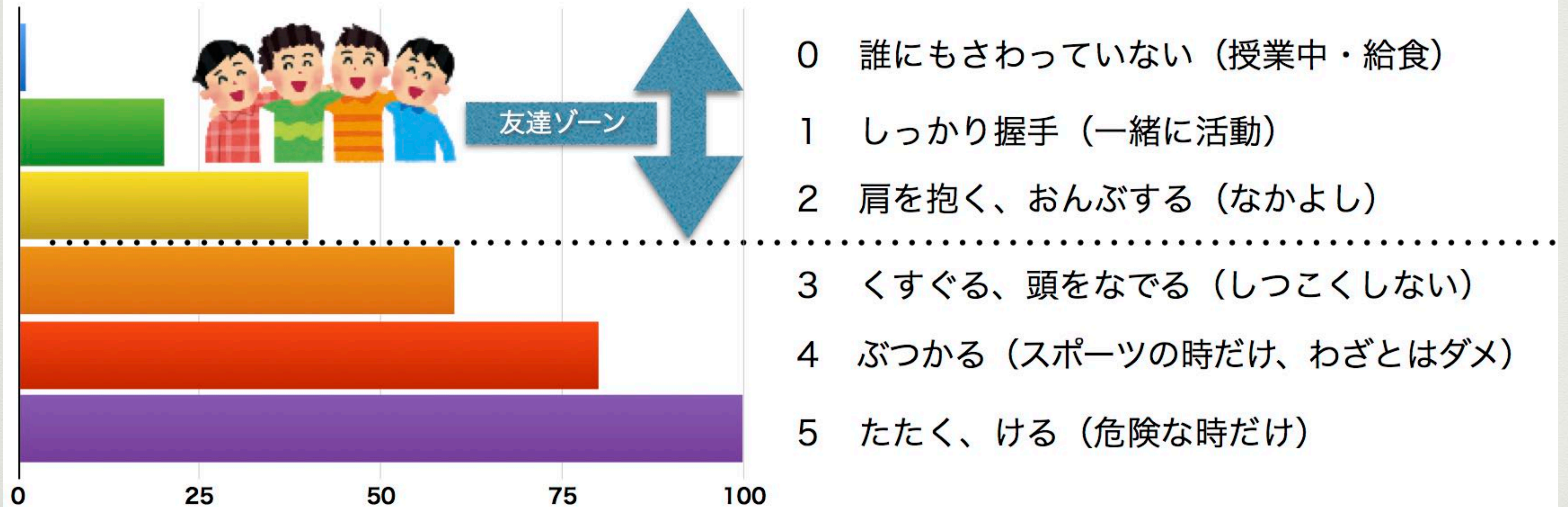
☆強弱を視覚化する



『視覚化』の例

☆他者との接触を視覚化する

タッチのもののさし



☆肯定的な表現をする☆

「〇〇しないと△△できないよ」

「〇〇しないと□□になってしまうよ」

➡「〇〇すると☆☆できるよ」

例：「歯磨きしないと虫歯になるよ」

➡「歯磨きしたら、お口の中がさっぱりするよ」

肯定的に言うとうどうなるでしょう？

- | | |
|--------------|------------------------|
| ①廊下を走らない⇒ | 廊下はゆっくり歩こう |
| ②おしゃべりをしない⇒ | 静かにしよう、声を0にしよう |
| ③散らかさない⇒ | 使ったらお片付けしよう、1つずつ使おう |
| ④時間に遅れない⇒ | ○時に△△へ行こう、 |
| ⑤忘れ物をしない⇒ | ・ ・ を持っていこう、絵カード・リスト活用 |
| ⑥お友達と喧嘩をしない⇒ | お友達と仲良く遊ぼう |

自尊心を高める

☆長所や独自の発想を大切にする

☆少しでもできたら、以前よりできるようになったら具体的に褒める。

例：はみださずに塗れるようになったね。

裏と表を間違えないようになったね。

☆みんなとやり方やペースが違っていい。

「早く」「ちゃんと」「みんなと同じように」

の思いが出てきたら深呼吸。

ことばを増やす

☆社会生活で必要な言葉を身につける

例：挨拶をする、感謝する、頼む、誘う、断るなど

☆気持ちを表す言葉を増やす

自分の感情に相応しい言葉が見つけられると、気分のイライラ・モヤモヤが減少する。相手の気持ちの理解や衝動・怒りのコントロールにつながる

指示の仕方

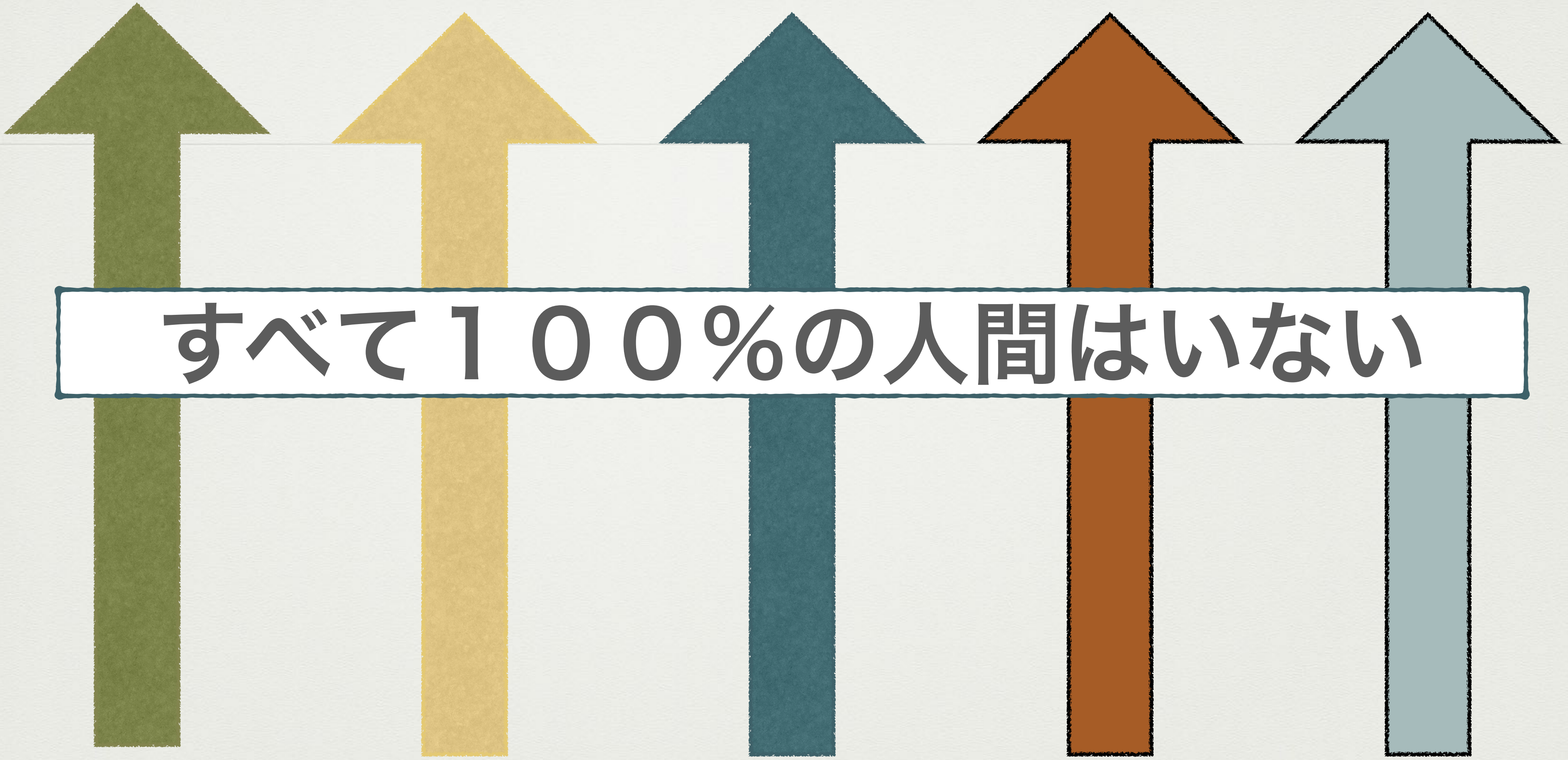
☆CCQを意識する

C: Calm（穏やかに） *C: Close*（近づいて） *Q:*（静かに）

保育者自身が穏やかに子供にもう少し近づいて声のトーンを抑えて指示をする。

☆短く指示をする

複数の内容を一度に指示すると理解しにくいので一つ一つ区切って短く指示をする。



すべて100%の人間はいない

規則の理解

感情の発達

感情の制御

言語の発達

客観的認知

誰にも得手・不得手はある



規則の理解

感情の発達

感情の制御

言語の発達

客観的認知

具体的な支援につながる視点

・ 変わっている子



みんなと違う子

どこが違うんだろう？

・ 困った子



困っている子

どうして困っているんだろう？

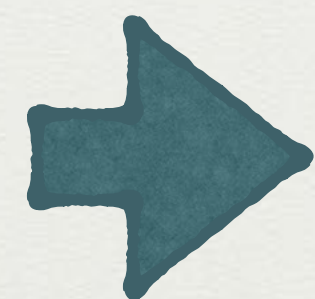
・ 付き合うのが難しい子



生きていくのに苦労している

何に苦労しているんだろう？

・ わからないことをする子



ルールや仕組みがよく分から

分りにくいのはどこだろう？

・ 言うことを聞かない子



言われたことが理解しにくい

うまく伝わる方法はないかな？

認知とは

環境から情報を受け取り、脳で処理して行動に移す過程
その働きとして「感覚」「記憶」「思考」の3つがあります。

Ex. 保育者：「ハサミとのりを持ってきて」

子ども：「耳でその言葉を聞き取り」（感覚）

「ハサミとのりという2つの物を覚え」（記憶）持ってくるという行動

工作が始まり、切る場所を間違った場合

子ども：「間違えたけど大丈夫。先生に言えばもう一枚紙をくれるから」と考え

「先生、紙ちょうだい」と伝えます。

この時、（思考）と以前の経験を思い出すという（記憶）を使っています。

非難ばかりされた子どもは、非難することをおぼえる

殴られて大きくなった子どもは、力にたよることをおぼえる

笑いものにされた子どもは、ものを言わずにいることをおぼえる

皮肉にさらされた子どもは、鈍い良心のもちぬしとなる

しかし、激励を受けた子どもは、自信をおぼえる

寛容にであった子どもは、忍耐をおぼえる

賞賛を受けた子どもは、評価することをおぼえる

フェアプレーを経験した子どもは、公正をおぼえる

友情を知る子どもは、親切をおぼえる

- 「子は親の鏡」 (*Children Learn What They Live*)

安心を経験した子どもは、信頼をおぼえる

ドロシー・ロー・ノルト

可愛がられ抱きしめられた子どもは、世界中の愛情を感じとることをおぼえる